

## 2022年度 入学試験問題

# 国語

## (第1回)

[注意]

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 解答用紙は、問題冊子の中にはさんであります。試験開始の合図があったら、解答用紙を取り出して受験番号と氏名を記入し、QRコードシールをはりなさい。
3. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
4. 問題冊子の余白等は自由に使って構いません。
5. 試験終了後、解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰りなさい。

東京都市大学附属中学校

【注意】国語の問題では、字数制限のあるものは、特別な指示がない限り句読点等も一字に数えます。

1 次の文章は「わかり方」の種類を説明したものです。この文章を読んで、後の問いに答えなさい。

論理的にわかる

① 近代教育がもつとも価値をおいてきたわかり方が、この論理的わかり方であるといつてよいであろう。いくつかの個別的事実から一般的結論を引き出す帰納論理、あるいは、大前提（公理…例「人間は死ぬ」と小前提（条件…例「太郎は人間である」とから結論（例「ゆえに太郎は死ぬ」）を引き出す演繹論理とが、よく知られている。

学校では、帰納論理を鍛えるために生物などの経験科学が、演繹論理を鍛えるために数学などの形式科学が、もっぱら教えられてきた。論理に従って展開されたわかり方を執拗に教え込むのが、近代教育の目標であった。これによって、知識の世界で、多くの人々が一つの共通のわかり方の枠組みを持つことができるようになり、それがひいては社会、文化の維持と発展につながることもなってきた。

しかし、帰納論理にしても演繹論理にしても、その「わかり方」は、必ずしもすべての人が同じというわけではない。たとえば、帰納論理ならこんなことが起こる。

帰納論理の一つの問題として、個別的な事例のいくつについてルールが成立すれば、それを一般的な法則としてよいか、ということがある。この点については、子供では、たった一つの個別的な事例から、いとも簡単に一般的な結論を引き出してしまう（ブンミヤクや条件の異なるところへ個別事例に含まれるルールを適用してしまう）ことが知られている。② 転導推理と呼ばれているものがそれである。たとえば、つぎのような例である。

a 泣いている子供を見て、お母さんに叱られたんだと結論づける。

b 物が倒れているのを見て、地震があったという。

大人でも、日常的な知恵の多くは帰納的な推論からなっているが、その中には転導推理と同じような推論で導かれたものかなり含まれているはずである。大人の場合は、強い感情的な体験、たとえば、非常にうれしいことや悲しいこと、大きな失敗などを伴うとき、こうした転導推理に近い推論がなされているようである。偏見、俗説の多くが、このようにして形成される。こうしたことが起こるのは、帰納法に、帰納法的飛躍と言われるものがあるからである。つまり、帰納法では、限られた個別的事例についての結論から、あるところで一気に飛躍して、一般的な結論を引き出さなければならない。それが一つの事例だけからなされるのが転導推理、また感情的に強烈な体験に遭遇し、感情論理によって強固な信条にまでなってしまったのが偏見、俗説である。いくつの個別的事例からの結論なら一般的法則として十分かはわからない。多分、それは数の

問題ではないはずである。この飛躍が、何らかの合理的な背景（ただし、これをはつきりことばで説明することは不可能であろう）のもとでなされたときに、すぐれた創造がなされるし、主観的には「わかった」という強烈な感じを持つことができる。

推論の仕方がきちんと決まっている。演繹論理<sup>③</sup>にしても、誰でもが、いつでも誤りなくその推論規則に従えるというわけではない。たとえば、仮言三段論法で、前件否定の誤りとして知られている、非常によく起こる誤った推論の型がある。たとえば、次のようなものである。

大前提 もし風が吹けば桶屋がもうかる

条件 風が吹かない

結論 ゆえに桶屋がもうからない

これは、推論規則の上から誤りとも正しいとも決められないというのが正しい。しかし、きわめて多くの人が、これを正しい推論であると判断してしまうことが知られている。「論理的な」演繹と、「心理的な」演繹とが必ずしも一致するわけではないことを示す好例である。そして、わかるという主観的体験は、「心理的な」論理の方が強く影響しているらしいことを、またここでも強調しておかねばならないであろう。このあたりのことについては、人の合理的推論とは何か、人とはどのようなヒューリスティクス（発見法）を展開するのかという問題として、認知心理学者のみならず、行動経済学者からも熱い関心が向けられている。

## 行動的にわかる

「あるボタンを押すと画面の状態が変わることがわかる」「お金を入れるとジュースが出てくることを知っている」などなど。いずれも、ある動作と環境のある変化との間に関係のあることがわかって示していることを示している。これを行動的わかり方と呼んでおく。

行動的わかり方の特徴は、行動と環境変化との間に介在している キコウ<sup>b</sup>については知らうとしないところにある。

行動的わかり方は、観点を換えれば、一種の因果的なわかり方とも言える。つまり、ある状態の変化を引き起こす原因をみずから ソウサ<sup>c</sup>して、その結果をみずから確かめる、ということであるから、まさに体験的に因果律を確認していることになる。

ここで一つ問題になるのが、原因から結果までの  である。この距離が、通常は短期記憶におさまるくらいの範囲（たかだか20秒以内）にとどまれば、「わかった」ということになる。しかし、この間隔が大きくなるにつれて、短期記憶から原因となる行為に関する情報が消えてしまい、ある状態が起こっても、それが原因と連合しない、ということが起こる。このとき、わからない状態が発生する。

あるいは、原因と結果とが時間的に離れてくると、何かを待たされるイライラを体験させられる

ことになり、気持ちがよくない。人間は、自分のしたことの効果をすぐに確かめたい存在らしい。

次の文章のうち、どれが一番自然か。

- a 電源を入れると、矢印が点滅てんめつします。これで正常です。
- b 正常であることを示すために、電源を入れると矢印が点滅します。
- c 電源を入れると、正常であることを示すために、矢印が点滅します。

子供でも大人でも、あることを学習しはじめた頃ころには、こうした行動的なわかり方が、とりあえずの方略として最適であることが多い。また、マニュアルなどの「わかり方」も、このたぐいのわかり方ができればいい、ということがある。現実には、これさえ満たしてくれない<sup>④</sup> マニュアルが多いのはご承知の通りである。

### 直観的にわかる

論理的にわかるにしても、行動的にわかるにしても、「わかった」理由がわかったという点では共通している。

しかし、こうした分析的ぶんせきのわかり方とは違ちがって、「ともかくわかった」、「理屈りくつはわからないがわかった」というわかり方がある。それが、ここでいう「直観的」わかり方である。その特徴は、次のような点にある。

- ・わかるレベルが深い。ことの本質がきちんとわかっている。
- ・まとめてたくさんのがわかる。
- ・きわめて主観的である。場合によっては、「誤っている」ことさえある。
- ・瞬間的しゆんかんにわかる。とはいっても、わかる以前には、わからない状態がかなり長く続くのが普通ふつである。
- ・確信を持ってわかったと言える。自己評価が伴うわかり方である。
- ・わかった理由を説明できない。理由を説明できたとしても、あとづけ説明に過ぎないことが多い。

子供のわかり方、創造活動でのわかり方の多くが、質の違いこそあれ、この型である。また、多分、帰納法的飛躍によるわかり方も、直観的であろう。

直観的わかり方の情報メカニズムがわかると、人のわかり方についての<sup>d</sup> ケンキユウも飛躍的に進歩するはずである。

(海保博之『読ませる技術聞かせる技術』より)

問1 ——線 a～d のカタカナを漢字に直しなさい。

問2 〰〰線「いとも」とありますが、次の各文の〰〰線のうち、これと同じ意味のものを一つ

選び、番号で答えなさい。

- 1 彼は重たい荷物を楽々と持ち上げた。
- 2 わざわざ足労くださりありがとうございます。
- 3 先生はすぐに対応してくれた。
- 4 彼女は非常に親切で丁寧な対応をした。

問3 次の文はもともと文中にあったものです。どこに入れるのが最もふさわしいですか。あてはまる部分の直前の五字をぬき出しなさい。

すなわち、行動と環境変化との間に介在する過程をブラック・ボックスにして、「わかってしまおう」というものである。俗に言う「やり方、手順はわかる」がこれに相当する。

問4 ——線①「近代教育がもつとも価値をおいてきたわかり方が、この論理的わかり方である

といつてよいであろう」とありますが、論理的わかり方に価値をおくことによつてどのような結果を得られましたか。最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 多くの人々が共通したわかり方の枠組みを持つことができるようになり、社会や文化の維持と発展につながった。
- 2 論理的わかり方の代表である帰納論理が、私的感情によつて強固な信条にまでなつてしまふことを明らかにした。
- 3 合理性を繰り返し学ぶことで一般的な規則性を体得し、人類のすぐれた創造や個々の主観的な解釈を生み出した。
- 4 「経験科学」や「形式科学」を理解したことで、本来起こりうる「心理的な」影響を少なくすることができた。

問5 ——線②「転導推理」とありますが、これにあてはまらない例を次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 友達と公園で待ち合わせをしたが約束の時間になつても来ない。友達は寝坊したと考える。
- 2 すべての野菜は栄養がある。ニンジン野菜である。ニンジンは栄養があると考ええる。
- 3 彼女はとても背が高い。だから彼女はバスケットボールが得意に違いないと考える。
- 4 うちの子どもはイチゴが大好きだ。子どもはみんなイチゴが大好きだと考える。

問 6 ——— 線③「演繹論理」の正しい推論の型の例として最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1
- |     |                           |
|-----|---------------------------|
| 大前提 | ある図形が正三角形ならばそれは二等辺三角形でもある |
| 条件  | 図形 A は正三角形ではない            |
| 結論  | 図形 A は二等辺三角形ではない          |

- 2
- |     |                        |
|-----|------------------------|
| 大前提 | もし台風警報が発令されたら、学校は休みである |
| 条件  | 台風警報が発令された             |
| 結論  | 学校は休みである               |

- 3
- |     |                   |
|-----|-------------------|
| 大前提 | 努力が足りないと、業績は上がらない |
| 条件  | 業績が上がっていない        |
| 結論  | 努力が足りない           |

- 4
- |     |  |
|-----|--|
| 大前提 | テレビよりもインターネットの方が人気がある                  |
| 条件  | インターネットを視聴 <small>しちやう</small> する人が増えた |
| 結論  | テレビの人気がなくなった                           |

問 7 空らん  にふさわしいことばを五字で答えなさい。

問 8 ——— 線④「マニュアルが多い」とありますが、どういうマニュアルの多さを言っていますか。次の空らんに入ることばを文中より十字以内でぬき出しなさい。

も不明なマニュアルが多い。

問9 この文章を読んだAさんは、身のまわりにあるマニュアルとして【頭痛薬の使用上の注意事項】を見つけました。これを読んだAさんの行動として明らかに適切でないものを次から三つ選び、番号でそれぞれ答えなさい。ただし、次の【条件】を踏まえて考えることとします。

【条件】 Aさんは四十歳の男性で、特に病気やアレルギー症状はない。

【頭痛薬の使用上の注意事項】

内容	
製品名	▲▲▲頭痛薬
効能・効果	○頭痛・歯痛・関節痛・筋肉痛・神経痛・骨折痛・だぼく痛・耳痛・ねんざ痛・発熱時の解熱・肩こり痛・腰痛・外傷痛の鎮痛
使用上の注意	<p>○本剤を服用している間は、次のいずれの医薬品も服用しないでください 他の解熱鎮痛剤、かぜ薬、鎮静薬、乗物のよい止め薬</p> <p>○服用後、乗物または機械類の運転をしないでください</p> <p>○服用前後は飲酒しないでください</p> <p>○長期連用しないでください</p> <p>○次の人は服用しないでください (1)本剤または他の解熱鎮痛剤、かぜ薬を服用してぜんそくを起こしたことがある人。 (2)本剤または本剤の成分によりアレルギー症状を起こしたことがある人。 (3)十五歳未満の小児。</p> <p>○次の人は服用前に医師、歯科医師、薬剤師または登録販売者に相談してください (1)医師または歯科医師の治療を受けている人。 (2)授乳中の人。 (3)高れい者。 (4)薬などによりアレルギー症状を起こしたことがある人。</p> <p>○服用後、発赤やかゆみ、むくみがあらわれた場合は副作用の可能性があるため、直ちに服用を中止し、この説明書を持って医師、薬剤師または登録販売者に相談してください</p> <p>○服用後、便秘やねむ気があらわれることがあるので、このような症状の持続または増強が見られた場合には、服用を中止し、この説明書を持って医師、薬剤師または登録販売者に相談してください</p> <p>○5～6回服用しても症状がよくなる場合は服用を中止し、この説明書を持って医師、歯科医師、薬剤師または登録販売者に相談してください</p>
用法・用量	次の1回量を1日3回を限度とし、なるべく空腹時をさけて水またはぬるま湯で服用してください。服用の間かくは4時間以上おいてください。 〔年れい：1回量〕成人：2錠
保管、および取りあつかう上での注意	<p>○直射日光の当たらないしめり気の少ないすずしい所に保管してください</p> <p>○小児の手の届かない所に保管してください</p> <p>○他の容器に入れかえないでください（誤用の原因になったり品質が変わることがあります）</p> <p>○使用期限をすぎたものや不明なものは服用しないでください（使用期限は外箱に印字）</p>

【Aさんの行動】

- (1) ひどく頭が痛いのが歯科医院で鎮痛剤をもらっているため、本剤の服用を我慢した。
- (2) 急に歯が痛み出したので、本剤で痛みを抑えたあと、最寄りの歯医者を探して、車で送ってもらった。
- (3) 小学生の息子が頭痛を訴えてきたため、1回の服用量を1錠にして本剤を服用させた。
- (4) 頭痛を治すために二日間朝夕晩に本剤を服用したが、改善されなかったので翌日も服用した。
- (5) 頭は痛くなかったが、発熱していて体力も失われているため、本剤と一緒に栄養剤を服用した。
- (6) 急な発熱があったので、薬を探したところ、外箱のない本剤がたまたま見つかったため服用した。

2 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

東京の都市開発会社に勤める「私」（陣野志保）が仕事でミスを犯した後輩・横川忠志を叱ったところ、彼はその件に関して会社を訴えろと言いだした。事を荒立てまいとする上司から横川に謝罪するようがめられた。「私」は納得がいかず、無理矢理一か月間の休暇をとって北海道の釧路湿原に来ていた。そこで出会ったタンチョウレンジャー・天羽翔一は、東京のデザイン会社に勤めた経験を持ち、「私」のプレゼンを聞いたことがあると知る。

朝九時を少し回った頃、きのうと同じいでたちの天羽さんが雪原に出てきた。きんと冷えた空気のなかに、トウモロコシを放つ。タンチョウたちが、ゆつくりと遠巻きに天羽さんを囲み始める。この風景の中に入っていける人間は、この瞬間、天羽さんただひとり。私は両手をダウンジャケットのポケットに突っこんで、そのまま絵になってしまいそうな風景を目に焼きつけた。

柵の外へ天羽さんが出てくる。今度はつんのめることなく、私はゆつくりと近づいていった。私の姿を見ると、天羽さんは手を上げて笑顔になった。

「行き先は決まりましたか」  
私はうなずかなかつた。その代わりに、弱々しく笑ってみせた。実際、目的地など最初からないのだ。

「東京へはいつ帰るんですか」

そう聞かれて、微かな戸惑いが胸のうちに立ち上ってきた。

私、帰るんだろうか。

帰れるんだろうか。

逃げ出してきたしまった場所へ。

「いちおう、週末には帰る予定です」

真っ白なスケジュール帳を頭の中に広げながら、そう答えた。天羽さんはうなずいて、

「陣野さんのプロジェクトが完成したら、僕も見にいけます。どんなふうに東京が変わるか、楽しみにしてますんで」

邪気のないまなざしでそう言った。① 私はまた、うなずくことができなかった。

「じゃあ、また遊びにきてください。たまには、こんななんにもない風景もいいもんでしょ。僕は来年いっぱい、ここにいますから」

タンチョウレンジャーの任期は一年、場合によっては二年いることもある、と天羽さんはゆうべ教えてくれた。

そのあとどうするか、というところまで話は及ばなかった。

天羽さんの頭上を飛んでいくタンチョウの群れがあった。それにつられて、隅々まで晴れ渡つたすがすがしい空を見上げる。青は目にしみて痛いくらいだ。

タンチョウが去っていった方向を視線で追いながら、ふと、言葉が口をついて出た。

「私、もう職場に戻れないかもしれない」

メガネの奥のおだやかな目に、驚きの色が浮かんだ。その目をみつめながら、私は続けた。

「逃げてきちゃったんです。都市とは真逆の、なんにもないところへ行きたいって。だからもう、戻らないほうがいいのかもしれない」

負けちゃったんですから。

小さく、そう付け加えた。

自分が積み上げてきた経験を捨てて、思い切つてこの土地にやってきた天羽さんがうらやましかった。そんな勇氣は、どうしたつて私にはない。もう職場に戻れないかもしれない、と告白しておきながら、戻りたいという欲求と戻れないという絶望のはざままで、私はもがいていた。

進むことも、戻ることもできない。立ち止まったままではかんとしている自分が、どうしようもなく切なかつた。

天羽さんは私の目をみつめ返していたが、少したしなめるような口調で言った。

「弱気だなあ。東京の風景を変えるつて、あんなに言つてたじゃないですか」

② 私は返答に詰まつた。心のどこかでは、慰めかアドバイスか、優しい言葉を期待していたのだ。

「一介の会社員が、そんな大それたことできるわけじゃないですよ」  
ちよつとむくれて言うと、

「どんな大それたことでも、誰かがそう考えるところから始まるんじゃないかな」

天羽さんは微笑して言った。

「おんなじですよ、このサンクチュアリだって。この世から消えかけた風景を残そうと、立ち上がった個人がいた。それが大きなうねりになったんですから」

そうして、まぶしそうに雪原を振り向いた。

天羽さんの背後で、風景は輝いていた。どうしようもなくまぶしい一瞬を、私たちは同じリズムで呼吸していた。③ その単純な事実には、私は静かに胸を打たれた。

車に乗りこんで、窓を下げる。天羽さんは腰を屈めて覗きこむと、

「じゃあ、いつてらっしゃい」

そう声をかけた。

「いつてきます」

ふるさとに残る友に語りかけるように、そう応えた。

「いつでも帰ってきてください。待ってますから」

私はひとつ、うなずいてみせた。

「あ。そうだ、僕の携帯番号。もし道に迷ったりわからないことがあったら、いつでも電話ください。090……」

バッグからあわててペンとスケジュール帳を取り出す。真つ白な十二月のスケジュール表の上に、天羽さんの携帯番号を控えた。

「よかつたら陣野さんの名刺、ください。去年プレゼンしたとき、いただきそびれちゃって」

私は名刺入れから一枚、名刺を取り出した。まさか北海道で名刺を誰かに渡すはずはないと思いながらも、つい持ってきてしまったのだ。

四井都市開発株式会社 東京セントラルシティ開発チーム 課長補佐 陣野志保

名前の後ろに携帯番号を書き添えて、<sup>④</sup>「四井」から「陣野」まで、文字の上に一気に横線を引いた。

「志保です。よろしく」

そう言って、名刺を差し出した。天羽さんは軍手を外してそれを受け取ると、

「また会いましょう、志保さん」

大切そうに、ポケットにしまった。

ゆつくりとアクセルを踏む。そろそろと車が走り出す。バックミラーに映る天羽さんが手を振っている。最初は遠慮がちに、次第に大きく。角を曲がる瞬間に、両手を振り回しているのが見えたので、小さく噴き出してしまった。

フロントガラスに広がる空の青さ。まっすぐな雪の一本道は、滑走路のようだ。

ふたつめの角を曲がるのと同時に、ひさしく静かだった携帯電話が鳴った。

天羽さん？

あわてて車を路肩に停める。

バッグの中を引っ掻き回して携帯を取り出す。液晶画面には、会社の番号が表示されていた。

胸がぎくんとした。しばらく番号をみつめてから、思い切って通話ボタンを押した。

「はい、陣野です」

一瞬、沈黙があった。もぞもぞと、しゃべりにくそうな声が聞こえてきた。

「おつかれさまです。あの、……横川です」

電話をかけてきたのは、横川忠志だった。

「横川君？」

思わず素っ頓狂な声を出してしまった。もぞもぞした声が耳の奥に響く。

「すいません。いま、お忙しいですか」

<sup>⑤</sup> そう言われて、笑ってしまった。少し前の私なら、何を嫌みな、とむっとしただろう。

「全然、大丈夫よ。どうしたの」

一緒に仕事を始めた頃と同じ口調で、私は横川君に語りかけた。部長に直接頼みこんで、優秀な人材である彼を私は自分でチームに引き入れたのだった。がんばります、と嬉しそうに言うて

いた横川君の A 上気した顔が蘇る。

「あの、陣野さんが作っておられた企画書……商業施設の箇所なんですけど、どうしてもわからないところがあったって」

課長に聞くと、陣野に直接聞け、と言われたらしい。最初は聞きにくそうに、やがてはきはきと、横川君はいくつかの案件を質問してきた。それに答えながら、私は職場の風景をなつかしく思い起こした。そして、その近くで少しずつ着実に完成に向かって立ち上がっていく高層ビルを思い描いていた。

目の前にどこまでも続く         。その消失点をみつめながら、いまは遠くにある場所を、私は見ていた。

ひと通りの質疑応答を終えると、横川君の明るい声がした。

「よくわかりました。ありがとうございます」

私は微笑した。ぺこり、と律儀に頭を下げる彼の姿が見える気がした。

「あの、またわからないことがあったらお電話してもいいでしょうか」

私は黙つてうなずいた。見えないとわかっていて、何度もうなずいた。

「もちろん」

ようやくひと言応えたときに、不覚にも涙声になってしまった。気づかれたくなくて、「じゃあ」と急いで切ろうとすると、

「あの、もうひとつだけ質問があります」

口早に問いかけてきた。

「いつ、会社に戻られるんですか」

私は息を止めた。言葉を探して、一本道の上に広がる空に視線を投げた。

まぶしい冬空を、白い翼が一直線に横切っていく。

「ねえ、横川君。いま、何が見える？」

答える代わりにそう聞いた。唐突な質問に、横川君は少々 B 面食らつたようだ。

「え。いま、ここから……ですか？」

彼の席からは、建設中のプロジェクトの現場が見えるはずだ。

「工事中の『ザ・メインタワー』が見えますが」

その頭頂部には、クレーンが蠢いている。

「クレーン、見える？」

「ええ」

「こつちもよ」

「え？」

「私も、見てる」

こつちのは飛んでるけどね。そうは言わずに、私はただ笑った。

「さ来週には戻ります。ありがとうございます」

電話を切って、シートに寄りかかった。ハンドルを握って、カーナビを見る。

私がいまいる地点が、せわしなく点滅している。周囲には何も無い。白い画面が広がるばかりだ。ゆっくりとアクセルを踏む。風景の果てしない広がりの中を、点景になった私が少しずつ進

んでゆく。

(原田マハ「冬空のクレーン」より)

※レンジャー……野生鳥獣の保護や公園の管理などを仕事とする人のこと。

問1 ——線A「上気した顔」・B「面食らった」のことばの意味として最もふさわしいものを

次から一つずつ選び、それぞれ番号で答えなさい。

- |           |             |              |
|-----------|-------------|--------------|
| A 「上気した顔」 | 1 興奮しほてった顔  | 2 得意気で気取った顔  |
|           | 3 照れて赤くなった顔 | 4 気持ちのうわついた顔 |
| B 「面食らった」 | 1 なやんだ      | 2 あきれた       |
|           | 3 あやしんだ     | 4 おどろいた      |

問2 ——線①「私はまた、うなずくことができなかつた」とありますが、どうしてですか。最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

1 「私」が仕事を放り出して東京を出て来たとき気が付いた天羽さんに仕事の完成を楽しみにしているとき皮肉られ、ぶつけようのない憤りを覚えたから。

2 「私」の仕事が東京を変えるのを楽しみにしている天羽さんに仕事を放り出して東京を出て来たとき言い出せず、後ろめたく感じているから。

3 出会ったばかりの「私」に優しく接してくれた天羽さんに東京へ帰る予定を聞かれたものの、本心では北海道で一緒に暮らしていきたいと思つたから。

4 素直な気持ちで「私」の仕事を応援してくれている天羽さんに東京での再起を誓いたかつたが、帰ってからの忙しさを想像すると憂鬱な気分になつたから。

問3 ——線②「私は返答に詰まった」とありますが、どうしてですか。最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 東京の風景を変えると意気込んでいたにもかかわらず、会社から期待されるプレッシャーに負けて遠くまで逃げてきた私に、天羽さんはきびしい言葉をかけてくるだろうと予想していたところ、私を勇気づける言葉をかけてくれてとても感動したから。
- 2 東京に戻りたくないという思いと会社のことを考えると戻らざるをえないという現実の間でもがいている私に、天羽さんが東京での仕事に意欲的だった過去の私の姿を思い出させたことで、自分自身も本心がわからなくなつて動揺しているから。
- 3 新たなことに挑戦する勇氣はないし、かといって今までと同じようには働けないだろうと思うとどうしていいかわからない私に、天羽さんはなぐさめの言葉をかけてくれるとひそかに期待していたのに、私をとがめる言葉をかけたのが意外だったから。
- 4 東京で仕事をしていた経験もある天羽さんなら自分の苦勞がわかってくれると信じて弱音をこぼした私が、天羽さんから一介の会社員として実現できることの限界をつきつけられたことで、会社員としての自分の能力を低く見積もられいらだっているから。

問4 ——線③「その単純な事実には、私は静かに胸を打たれた」とありますが、ここでの「私」を説明したものととして最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 天羽さんの言葉に励まされてまた仕事に対する意欲が湧き始めたものの、充実した人生を送る天羽さんと自分の大きな差を感じて胸を痛めている。
- 2 天羽さんの言葉に共感し前向きな気持ちを取り戻すとともに、自分の葛藤が取るに足りないものだと思わせる自然の壮大さを目の当たりにして感動している。
- 3 自分に対する好意を隠しきれない天羽さんの態度に気付き、自分の一方的な片思いだと思っていたものが両想いだったと知って気分が高揚している。
- 4 自分の悩みと向き合っ助言してくれた天羽さんに感謝していたが、天羽さんへの感謝の気持ちを忘れてしまうほどの絶景に心を奪われている。

問5 ——線④「『四井』から『陣野』まで、文字の上に一気に横線を引いた」とありますが、ここでの「私」の気持ちを説明したものとして最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 共に旅をして親密な関係になった天羽さんには、親しみをこめて名前で呼んでほしいと思っている。
- 2 既にデザインに携わる会社を辞めた天羽さんには、仕事で使う名刺を渡すべきではないと思っている。
- 3 新しい人生を歩み始めた天羽さんに、自分も東京に帰り次第会社を辞める覚悟を示そうと思っている。
- 4 自分に真剣に向きあってくれた天羽さんとは、肩書きなどにこだわらず一人の人間として接したいと思っている。

問6 ——線⑤「そう言われて、笑ってしまった」とありますが、ここでの「私」の気持ちを説明したものとして最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 直属の部下という立場にもかかわらず、「私」が休暇をとって北海道に旅行に来ていることを知らない横川君の言動に呆れてしまっている。
- 2 上司である「私」に電話するのに緊張するあまり、思わずまぬけな声を出してしまった横川君との会話を楽しんでいる。
- 3 業務中でないことを知っているはずの横川君が、「私」との電話に緊張するあまり「お忙しいですか」と尋ねたことをこっけいに感じている。
- 4 「私」が仕事を放り出してきたことを知っているのにあえて皮肉を言う横川君にむつとしたが、東京に帰った後のことを考慮して叱るのを我慢している。

問7 空らん  に入ることばとしてふさわしいものを文中から五字でぬき出しなさい。

問8 ~~~~~線について、「私」が見ている「クレーン」にあたるものを文中から五字でぬき出しなさい。

問9 — 線⑥「風景の果てしない広がりの中を、点景になった私が少しずつ進んでゆく」とありますが、この表現を説明したものととして最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 自分に温かい言葉をかけてくれた天羽さんとも別れた今、東京での仕事に戻るため孤独に進むしかないという「私」の内面を表現している。
- 2 再来週には帰るとその場のしぎで約束してしまったものの、スケジュール帳が真っ白なことを思い出し不安に駆られる「私」の内面を表現している。
- 3 タンチョウの飛び立つ姿に魅せられた一方で、自分が輝くべき場所はこんな田舎ではないと気づき、早く仕事に復帰しなければと焦る「私」の内面を表現している。
- 4 東京を飛び出してくるきっかけとなった横川君との関係も修復され、東京で待つ仕事に対し新鮮な気持ちで向き合おうとする「私」の内面を表現している。

- 問10 本文の表現に関する説明として最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。
- 1 物語の地の文は一貫して「私」の視点で描かれているため、「私」の心情は直接的に描写されており、天羽さんの心情は「私」を通じた描写となっている。
  - 2 「おつかれさまです。あの、……横川です」「え。いま、ここから……ですか？」などのように、本文中の「…」は分かり切っている内容を省略するために用いられている。
  - 3 登場人物のセリフはかきかっことで括り、心の中のつぶやきは地の文で書くという厳密な区別があることで、読者に話の内容が伝わりやすいような工夫がされている。
  - 4 タンチョウや雪など、物語の随所に白を連想させるような言葉をちりばめることによつて、「私」のスケジュールが「真っ白」であることを強調している。

3 次の【A】～【I】の作品にはすべて「雨」が出てきます。これらを読んで、後の問いに答えなさい。

【A】

雨がふります 雨がふる  
遊びにゆきたし 傘はなし  
紅緒の木履も 緒が切れた

雨がふります 雨がふる  
いやでもお家で 遊びましょう

千代紙折りましょう たたみましょう

雨がふります 雨がふる  
けんけん小雉子が 今啼いた  
小雉子も寒かる 寂しかる

雨がふります 雨がふる  
お人形寝かせど まだ止まぬ  
お線香花火も みな焚いた

雨がふります 雨がふる  
昼もふるふる 夜もふる  
雨がふります 雨がふる

(北原白秋「雨」)

【B】村雨の露もまだ干ぬ真木の葉に霧立ちのぼる秋の夕暮れ 寂蓮法師

【C】五月雨の晴れ間に出でてながむれば青田涼しく風わたるなり 良寛

【D】雨のふる牡丹の花に傘すれば妬み顔なる垣の山吹 正岡子規

【E】初時雨猿も小蓑をほしげなり

【F】本降りになって出て行く雨宿り

【G】夕立や草葉をつかむむら雀

【H】さみだれや大河を前に家二軒

【I】五月雨をあつめて早し最上川

問1 【A】の表現上の特色について説明した次の文のうち、間違いをふくむものを一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 口語詩ではあるものの、ところどころに文語表現を使っており、定型を基本とした独特のリズムを生んでいる。
- 2 すべての連に対句法を用いることで、雨が降りつづくようすを強調し、情景を印象づける工夫がなされている。
- 3 人物そのものが描かれてはいないものの、作品の中に登場する小道具によって、人物とその心情が把握できる。
- 4 具体的な場面を描写した連を重ねて、読者に時間の流れを感じさせることで、最終連の表現効果を高めている。

問2 【A】の第三連と同じような心情や情景がよまれた作品が【B】～【F】の中に一つあります。その作品をB～Fの記号で答えなさい。

問3 【A】～【D】の作品に描かれている情景を、雨に注目して分類したものとして最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- |             |             |             |
|-------------|-------------|-------------|
| 1 一A・B 二C・D | 2 一A・C 二B・D | 3 一A・D 二B・C |
| 4 一A 二B・C・D | 5 一A・B・C 二D | 6 一A・C・D 二B |

問 4 【B】 【D】の句末に共通して使われている表現技法の名前を四字で答えなさい。

問 5 【E】 ～ 【I】の中には、「川柳」とよばれる作品が一つあります。次の説明を参考にして川柳を一つさがし、E ～ Iの記号で答えなさい。

「川柳」とは、江戸時代中期ごろから盛んになった文芸で、俳句と同様の十七字の短い詩である。俳句とはちがって季語や切れ字などは必要としない。人情や世の中のようなすななどを題材に、軽みやおもしろみなどをもつて描くところに特色がある。

問 6 【E】 ～ 【H】の中から、冬をよんだ作品を一つ選び、E ～ Hの記号で答えなさい。

問 7 【E】 ～ 【I】の中から、次の①・②の説明にあうものを一つずつ選び、E ～ Iの記号で答えなさい。

① 東北地方を旅しながらよんだ松尾芭蕉の句。現地での体験をもとにした句で、ひたすら自然の力強さに光を当てている。

② 画家としても有名だった与謝蕪村の句。情景を細かく描写した絵画のような作品で、対象へのあたたかさも感じられる。

問 8 松尾芭蕉や与謝蕪村が活躍した時代はいつですか。次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 平安時代      2 室町時代      3 江戸時代      4 明治時代

問 9 漢字二字の熟語のほとんどは、音読み＋音読み、または訓読み＋訓読みで構成されていますが、重箱読み（音読み＋訓読み）や湯桶読み（訓読み＋音読み）のような例外もあります。次から湯桶読みとなる熟語を一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 雨足      2 雨具      3 梅雨      4 小雨

問 10 次の①～③は「雨」が使われたことわざや慣用句です。空らん□にあてはまることばを考え、それぞれひらがなで答えなさい。

- ① 雨降って□固まる  
② 雨だれ□をうがつ  
③ 雨後の□



